○公立高校・校門前（早朝）

まだ青白い空。

黒い鉄製の校門もまだ開いていない。

制服姿の持田美春（17）が、校門横の壁にもたれ、赤い毛糸であやとりをしている。

軽快に指を動かし星の形を作る。

完成した星を空に掲げ、流れ星のように斜めに切る。

が、途中で糸が緩んで星の形が崩れてしまう。

美春、毛糸をぐしゃぐしゃに丸める。

と、後方から自転車のタイヤ音。

美春、毛糸をポケットに押し込み、素早く前髪を整えて振り返る。

新藤椿希（20）が、古い自転車を漕いでやってくる。カゴには新聞の束。

椿希、すれ違いざまに爽やかな笑顔で軽く会釈をする。

美春、勢いよく頭を下げ、すぐに顔を上げるが、椿希の背中は遠ざかっている。

再びポケットから毛糸を出すと、すっかり絡まってぐしゃぐしゃの塊になっている。

○同・三年一組教室・ベランダ（朝）

美春、手すりから両手を乗り出して絡まった糸を解こうとしている。

途中、大きくあくび。

そこへ一葉愛咲（18）がやってくる。

愛咲「おはよ」

美春「（眠そうに）おはよう」

愛咲「最近やけに早いけど、矢畑君と一緒に来るのやめたの？」

美春「んー……」

愛咲「なんか、二年のテニス部の子が矢畑君の周りチョロチョロしてるとかって聞いたけど大丈夫なの？」

美春「へえ。そうなんだ」

あまり関心がなさそうに毛糸をいじる。

愛咲「矢畑君、他にも結構モテるみたいだし、うかうかしてるとマズいかもよ？」

美春「んー……（空返事）」

愛咲、美春の横顔を見つめ、

愛咲「とにかく忠告はしたからね」

美春「うん。ありがと」

愛咲、教室に戻っていく。

美春「……」

毛糸を解くのを諦め、こんがらがったままで空に掲げる。

○同・教室内

授業中。一番後ろの席の美春。ペンをくるくる回している。

ふ、と視線を感じる。愛咲と目が合う。

途端に愛咲が前を向く。

美春、窓の外に目をやる。

○同・廊下（昼）

昼休み。

美春、パンとパックのコーヒーを持って歩いていると、矢畑透（17）が前からやってくる。

矢畑「お、美味そうそのパン」

美春「いきなり？（笑う）いいでしょこれ」

矢畑「ちょっと食べたい。どこで食べるの？」

美春「んー……教室かな」

矢畑「屋上いかね？」

美春「んー……」

と、背後から騒がしい足音。二人、振り返る。

東条伊織（16）がやって来て矢畑の隣に立ち、パンを二つ掲げ、

伊織「先輩！これ好きなやつですよね？買って来ました！一緒にどうですか？」

矢畑「あ……ああ。ありがと」

横目で美春を伺う。

伊織「（美春を見て）いいですよね？」

美春、肩をすくめて答える。

矢畑「あ、あのさ……美春」

伊織「ほら、行きましょう！天気いいから屋上気持ちいいですよきっと！」

伊織、半ば強引に矢畑の腕を引く。

矢畑、腕を引かれながら美春を振り返る。

美春「待って」

ポケットから絡まった毛糸を取り出し、

美春「これ解いて」

矢畑と伊織、ぽかんとしている。

美春「ほら、早く」

矢畑「あ、あ……ちょっと待って」

矢畑、受け取った毛糸を解こうとするがなかなか上手くいかない。背後で伊織が眉を顰めている。

矢畑「あれ……ん……」

美春、毛糸をひょい、と取り上げ、

美春「もういいや。ごめんね。ありがと」

笑顔の後、背を向けて去っていく。

その背中を見つめる矢畑。

伊織、矢畑の腕を引き、

伊織「さ、行きましょ！」

屋上に向かう二人、愛咲とすれ違う。

○同・三年一組教室

美春、席に座る。

パンの袋を開け、一口齧る。

愛咲がやって来る。前の席に座り、

愛咲「ねえ、いいの？」

美春「（パンをくわえたまま）なにが？」

愛咲「さっきのが例のテニス部の子！なんですんなり渡しちゃうの？」

美春「見てたんだ」

愛咲「あの子、美春が矢畑君と付き合ってるの知っててああいうことしてんのよ？わかってる？」

美春「まあ……なんとなくは」

愛咲「だったら何で……」

美春「んー……私よりもあの子の方がお似合いなのかもね」

愛咲「何それ……じゃあそれでいいの！？」
美春「（驚き）どうしたの？なんでそんな怒ってるの？」
愛咲「（ボソッと）美春は贅沢だよ……」
美春「え……？」
愛咲「……なんでもない」
席を立ち、教室を出て行く。
美春「……」
複雑に絡んだままの毛糸を机の上に出し、その上に顔を伏せ、ため息。

○同・グラウンド・外観（夕）
チャイムが鳴る。

○同・三年一組教室
ほとんどの生徒が帰宅し、静まり返りがらんとした教室内。
美春は昼休み同様、机の上の毛糸に顔を埋めている。
携帯が震える。開くと矢畑からのメール。
メール本文「昼はごめん。一緒に帰らね？」
美春、返事はせず、再び毛糸に顔を埋める。
美春「ぐしゃぐしゃごちゃごちゃ……めんどくさい……」
そのうちに寝息に変わる。

○グラウンド（美春の夢）
周囲は霧のようにもやがかっている。
美春、指に違和感を覚え見てみると、無数の赤い糸が小指に巻き付いている。
その内の一本を引いてみる。何かが動く感触がする。さらに強く引っ張ると、糸にくくられた昼食のパンが現れる。
美春、首を傾げる。
さらに別の糸を引っ張ってみると今度は、新聞の束が姿を現す。
と、また別の糸から今度は逆に引っ張られる感覚がする。

美春、手繰り寄せようとするが動かない。仕方なく糸を辿りながら進んでいく。

やがて霧の先に人影が見えてくる。それは矢畑の姿。その小指に糸がつながっている。

目前まで迫った瞬間、横から別の人影が現れ、ハサミで糸を切ってしまう。

人影の正体は愛咲。美春を見て、

愛咲「……忠告したんだから」

そう言うと、矢畑の手を引いて霧の中に消えて行く。

美春「……（切られた糸を見つめる）」

だらんと下がった糸を結び、あやとりを始める。

箒、橋、星、ダイヤモンド、天の川と次々に作っては解く、を繰り返す。

表情が次第に明るくなっていく。

ふ、と見ると、赤い毛糸がもう一本、霧の先に続いているのに気付く。

美春、再び辿るように進んでいく。

が、なかなか辿りつかない。手繰り寄せた糸の塊が手元にどんどん膨らんでいく。

胸元までいっぱいに膨らんだ頃、ようやく後ろ姿が見えてくる。

美春、歩く速度が早くなっていく。

美春、背中に手を伸ばす。手が触れる、という瞬間に霧がパッと晴れる。

○三年一組・教室（夕）

美春、目を覚ます。

顔を上げ、辺りを見渡す。無人の教室。

瞬きを繰り返しながら、ベランダへ向かう。

○同・ベランダ

空は夕焼け一色。微かな風が吹いている。

美春の視線の先に、並んで校門を出て

行く矢畑と愛咲の姿。
美春、薄い笑みを浮かべる。
教室内を振り返る。机の上に絡まった赤い毛糸。

○同・校門前
美春、校門をくぐる。
絡まった毛糸をいじっている。
美春「ぐしゃぐしゃ、ごちゃごちゃ……」
と、目の前を夕刊の束をカゴに入れた椿希の自転車が通過する。
美春「あっ……あの！」
ブレーキ音と共に自転車が止まる。
椿希「（振り返り）はい？」
美春、緊張で唇を噛む。
が、すぐに笑顔を浮かべ、椿希に歩み寄る。
椿希「あの……なにか？」
美春、無言のまま絡まった赤い毛糸を差し出す。
椿希「……？」
美春「これ……解いてもらえませんか？」
椿希「え？」
美春「……お願いします」
椿希、戸惑いながら受け取る。しばらく触っていると、呆気なく解いてしまう。
美春「あっ！」
椿希「……これでいいですか？」
美春「はい！ありがとうございます！」
美春の眩しい笑顔に少し照れながら、解けた毛糸を手渡す。
その一瞬、二人の手が糸で繋がる。

○暗転
メインタイトル「糸を編みに」

〈了〉